

## 公 表

### 第32回 技能グランプリ「貴金属装身具」職種競技課題

※ 材料に示す支給材料を用い、競技課題図に示す作品を作製する。

#### 1. 競技時間

10時間00分 (第1日 7時間00分 第2日 3時間00分) 延長時間なし

#### 2. 注意事項

- a. 材料は競技用として支給された材料を使用し、それ以外は認めない。
- b. 使用工具は、基本的に持参工具一覧表で示した物以外使用してはならない。
- c. 持参した工具等は、競技開始前に競技委員の確認（点検）を受ける。使用を認められない工具は使用してはならない。
- d. 課題作品のための書き板、特殊な加工を施した工具類、また競技前に作製した展開図、案内図などは使用禁止。但し、競技中に作製したものは除く。
- e. 競技中は、安全に作業できる服装を着用し必要に応じて保護具を装着する。
- f. 競技中は、競技者間の工具類の貸し借りを禁止する。
- g. 競技中は、競技者間同士及び見学者、家族、友人等との会話は禁止する。（厳守）
- h. 競技中は、指定した場所以外での喫煙は禁止する。
- i. 薬品類の取扱い及び処理については、競技委員及び補佐員の指示に従うこと。
- j. 競技終了時間前に作業を終了した人は、競技委員に終了したことを伝えた上で作品を提出し、片付けを行わず速やかに競技エリア外に退出し待機する。
- k. 競技委員より競技時間終了の合図があったら、直ちに作業を止め作品を洗浄した上で、指定された場所（補佐員）に提出する。
- l. 競技終了後、競技委員の指示により、残り地金（異物を全て取り除く）と残りのろう材をそれぞれに分けて返却し、会場の工具及び各自持参工具の片付けを速やかに行うこと。  
また、片付けが終了するまでは競技者間の会話は控えること。
- m. 支給材料を標準消費量（減り）よりも多く消耗した場合は減点の対象となる。  
消耗した量または残り地金への異物混入の状態により其々減点される。  
(異物：折れたのこ刃・ゴム・耐火材の破片、研磨剤、紙、木片等)
- n. 禁止事項に対し競技委員より注意されないよう競技に臨むこと。
- o. その他、競技委員より指示があった場合は、その指示に従うこと。

## 公 表

### 3. 貴金属装身具職種 競技課題仕様

- a. 競技課題図を正確且つ慎重に読み取り、左右 1 セットのピアスとしてバランスのとれた美しい作品を製作する。
- b. ろう付け箇所は精密に擦り合わせ、ろう材の過不足がないようにする。
- c. 寸法を指定された箇所はそれぞれの許容差内に仕上げる。寸法指定の無い箇所については、課題図から慎重に読み取り製作すること。左右の寸法差についても極力小さくなるように製作すること。
- d. A 部（6 枚花弁パーツ）は、支給された板材を使用し、課題図に示すように製作する。裏側から全体を打ち出し、花弁それぞれの表面は擦り出しで加工し、各花弁の板厚は一番厚い所で  $t1.2\text{ mm}$  になるようにすること。各花弁には程よい大きさのメレダイヤモンド 6 個を容易に彫り留め出来るように下穴を開け表裏ともに面取りを施す。（裏取り無し）
- e. B 部は、支給された板材を使用し、課題図に示すように加工する。A 部と隙間の無いよう擦り合わせ、6 箇所の接点全てをろう付けする。
- f. C 部は、支給された丸線を使用し、背面図に示すように製作する。
- g. A 部と C 部の間には、支給された丸線を使用して課題図に示す位置に 5 本の支柱を挟み込み、E 部を下げる箇所は課題図に示すように加工し、それぞれの接点はすべてろう付けする。
- h. D 部は、支給された丸線を使用し、課題図に示す位置に適度な深さの溝を付け作製し B 部にろう付けする。
- i. E 部（リボンパーツ）は、支給された板材を使用し、課題図を良く読み取り優美なラインで、示す形状に製作する。仕上がりの厚さは  $t0.8\text{mm} \sim t1.2\text{mm}$ 、最大幅は  $17.5\text{mm}$  の寸法で許容差内に収める。交差部 1 は接点でろう付けし、交差部 2 は接しないよう空間を空ける。
- j. F 部は、支給された板材を使用し、課題図に示すように加工してマーキス枠を製作し、E 部と接点でろう付けする。
- k. G 部（四角パーツ）は、支給された板材を使用し、台形板 4 枚の組み立てにより製作する。各板は仕上がりの厚さ  $t0.8\text{mm}$  の寸法で許容差内に収め、うち 2 枚には課題図に示すように長さの中心まで、幅の中心に 3/0 のノコ刃幅程度のスリットを入れる。4 枚の台形板は精密に擦り合わせろう付けする。
- l. H 部は、支給された丸線を使用し、背面図に示すように製作する。G 部との間には課題図に示す 4 箇所の位置に支柱を挟み込み、接点は全てろう付けする。

- m. I 部は、支給された丸線と板材を使用してペアシェイプ枠を製作する。G 部とは板爪部と丸線爪 2 本部の計 3 箇所の接点でろう付けし、下座は H 部との間に背面図に示す位置に 3 本の支柱を挟み込み、接点は全てろう付けする。
- n. E 部と GH 部は、E 部交差部 2 の下側とリボン両端内側の接点でろう付けする。
- o. A 部と EG 部はスムーズに動くようにセットし、且つピアスピストを持ってぶら下げた時に、A 部、EG 部及び各キュービックジルコニアが課題図に示すようにすべて正面を向くよう施す。
- p. A 部中心、F 部、I 部には、それぞれ支給されたキュービックジルコニアを課題図に示すように石留めする。その際、キュービックジルコニアを破損しないようくれぐれも注意する。
- q. 金性刻印及び競技者番号刻印（2 ケタ）を、課題図に示すように E 部裏面に打刻する。
- r. 本仕様書における各工程指示、及び寸法の指定については作品の左右に関わらず共通であるが、E 部 G 部については作品の左右で反転形状になるため、課題図に示す形状になるよう注意する。
- s. 作品は、工具や加工による傷、加熱等による変色を全て除去し、支給材本来の色彩に鏡面仕上げする。その際、研磨し過ぎにより形状がくずれないよう注意する。
- t. 作業手順は各競技者の裁量で進めること。